

ルミセフ®の自己注射を行う 患者さんにご家族の方々へ



<第7版>

監修：医療法人桜仁会 いがらし皮膚科東五反田 院長 五十嵐 敦之 先生

目次

ルミセフ®について	2
自己注射の方法	4
よくあるご質問	12

ルミセフ[®]について

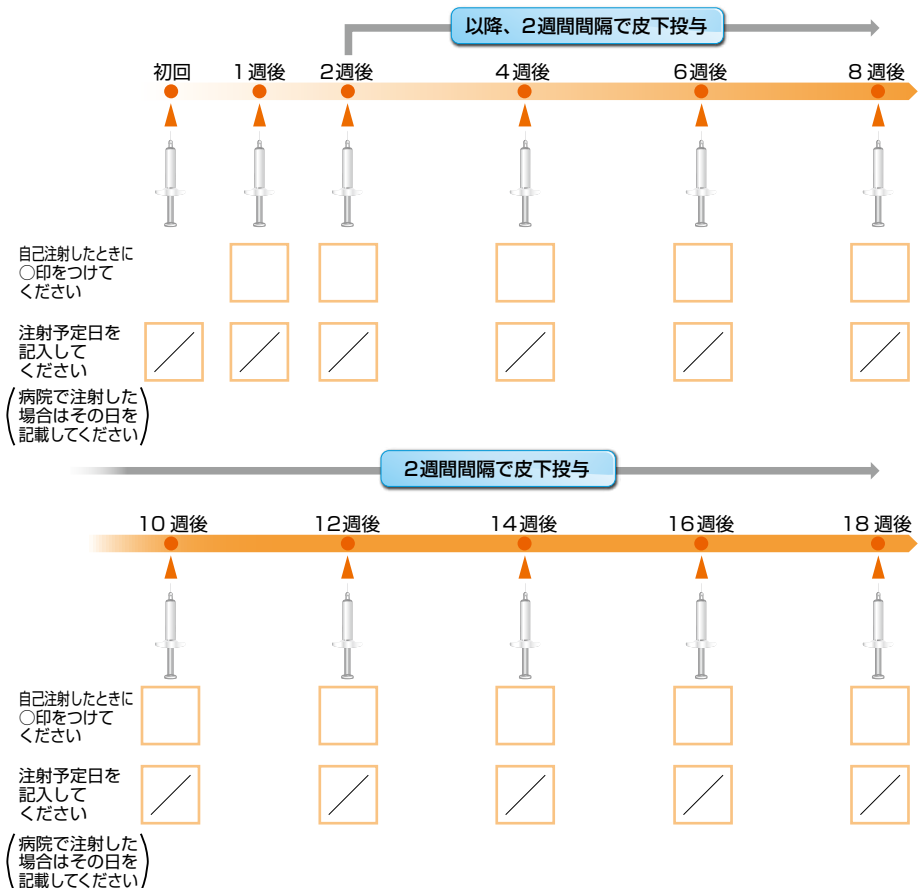
ルミセフ[®]とは

ルミセフ[®]は「ヒト型抗ヒトIL-17受容体Aモノクローナル抗体製剤」と呼ばれる生物学的製剤で、注射剤（皮下注射）です。

尋常性乾癬、乾癬性関節炎、膿疱性乾癬、乾癬性紅皮症、強直性脊椎炎、X線基準を満たさない体軸性脊椎関節炎、掌蹠膿疱症の治療薬です。

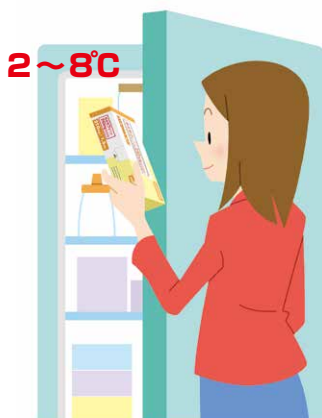
ルミセフ[®]の注射スケジュール

通常、成人にはプロダルマブ（遺伝子組換え）として、1回210mg（1シリンジ）を、初回、1週後、2週後に皮下投与し、以降、2週間の間隔で皮下投与します。注射する時間は何時でもかまいません。



ルミセフ[®]の保管方法

- 箱に入れたまま、冷蔵庫^{*}（2～8℃）で保存してください。
※チルド室を除く
- 凍結させないよう、注意してください。
- 直射日光に当たる場所に放置せず、外箱から取り出した後も光を遮る^{さえぎ}るようにしてください。
- 小児の手の届かないところに保管してください。



ご使用前の注意

- ご使用前にプリスター（包装）に表示されている使用期限を必ず確認してください。
- プリスター（包装）開封後は直ちに使用してください。



外箱の中には
プリスター(包装)
が入っています



プリスター(包装)

自己注射の方法

投与前の準備

●外箱



あらかじめ、冷蔵庫から出して室温に戻しておきます。

※目安として、冷蔵庫から出した後室内に15～30分程度置いておきます。

**電子レンジやお湯などで温めないでください。
室温で長時間放置しないでください。**

●アルコール綿 (消毒用、止血用)



●廃棄ボックス



●補助具



●準備マット



●体調管理手帳



1

1 必要なものをそろえる

注射に必要なものをそろえてください。

2 手を洗う



2

プリスター(包装) やシリンジ(注射器)、補助具などを触る前に手をよく洗ってください。

●外箱



●プリスター (包装)



●バレル(外筒) をつかむ



●シリンジ(注射器)



3

3 シリンジ(注射器)を取り出す

外箱からプリスター(包装)を取り出した後、バレル(外筒)をつかんで、プリスター(包装)からシリンジ(注射器)を取り出してください。その際に、ピストン(押子)はつかまないでください。

- シリンジ(注射器)の部品がすべて揃っていますか？
- ゆがんだりひびが入っていませんか？
- 薬液は漏れていませんか？
- シリンジ(注射器)内の薬液に浮遊物はありませんか？

※薬液の色・性状：無色から淡黄色、透明からわずかに白濁の液

注射する場所

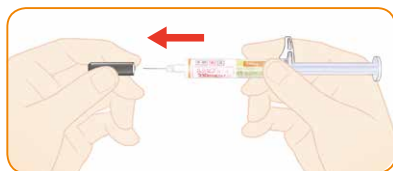
- ルミセフ®は「腹部」「上腕部（二の腕）の外側」「大腿部（太もも）」のいずれかに注射します。ただし、同じ個所に繰り返し注射せずに、注射するたびに少しずつずらしてください。



※脂肪の多い個所への投与が推奨されます。

- 前回注射した部位から3～5cm以上離れた部位に注射しましょう。
- 皮膚が敏感な部分、皮膚に傷、湿疹、赤味などがある部分や、乾癬のある部位、特に、盛り上がっている部位、痛みのある部位、赤くなっている部位、傷がある部位、硬くなっている部位などには注射しないでください。
- ルミセフ®は1シリンジにつき1回のみ使用するお薬です。一度使用したシリンジ（注射器）は再度使用してはいけません。
- ご自身で注射される場合は、「腹部」、「大腿部（太もも）」に注射します。

キャップの外し方



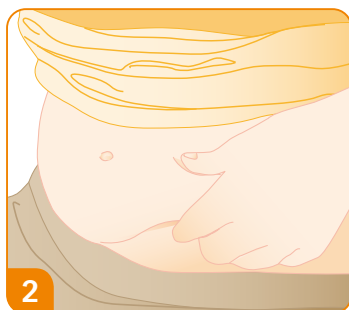
シリンジ（注射器）のバレル（外筒）を持ち、水平にして、針についているキャップを外します。外すときに針がご自分の指などにささらないように十分に注意してください。

自己注射の方法【腹部の例】（補助具を使用しないとき）



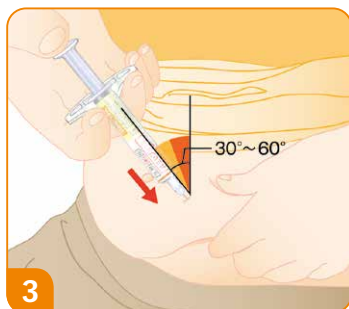
1 消毒する

注射する部位を決めたら、その部位を円を描くようにアルコール綿でふき、注射する部分の皮膚を消毒してください。



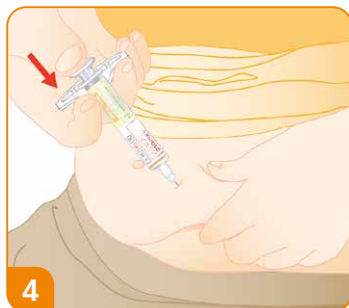
2 皮膚をつまむ

消毒した部分の周囲の皮膚を軽くつまんでください。



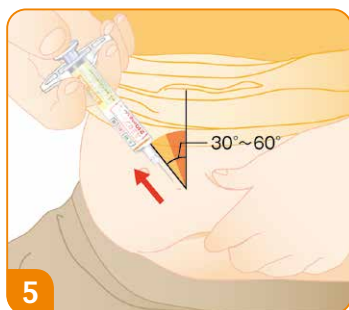
3 針をさす

シリンジ（注射器）の針を皮膚に対して斜め（30度から60度くらい）にして、針が全部見えなくなるまで、皮膚にさしてください。



4 注入する

シリンジ(注射器)をしっかり持って、ゆっくりと時間をかけて(目安として10~15秒くらいの時間をかけて)ピストン(押し子)を最後まで押し切ってください。



5 針を抜く

シリンジ(注射器)の中の液体が空になったら、注射をさせた時と同じ角度で針を抜いてください。



6 アルコール綿で押さえる

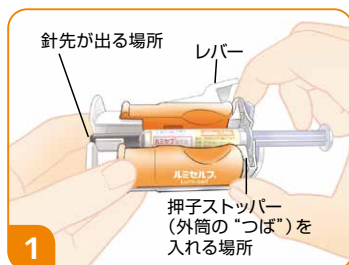
針を抜いた後、アルコール綿で静かに10秒程度押さえます。アルコール綿を外して血が出ていない事を確認したら注射は終わりです。注射した部位をもむとはれることがあるので、もまないように注意してください。

使用後のシリンジ(注射器)は針キャップをつけずに廃棄ボックスに廃棄してください。

- 針で指をささないように注意してください。

自己注射の方法（補助具を使用するとき）

●補助具への取り付け方法



1 取り付ける

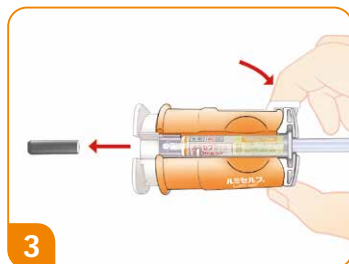
シリンジ（注射器）は、針キャップをつけたまま、イラストの向きに補助具に押し込みます。



2 針先を針カバーでおおう

針先を針カバーでおおってください。
針カバーでおおうことにより針先が見えなくなります。

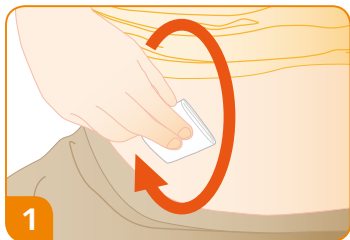
※針カバーを使用しない場合でも問題なく投与いただけます。



3 レバーを押す

ピストン（押し）ストッパー（外筒の“つば”）側の白いレバーを押すとロックがかかり、針キャップがはずれます。

●注射の方法【腹部の例】



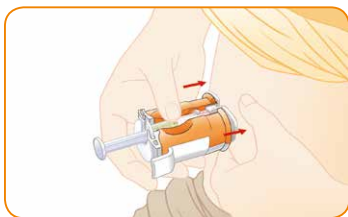
1 消毒する

注射する部位を決めたら、その部位を円を描くようにアルコール綿でふき、注射する部分の皮膚を消毒してください。



2 皮膚をつまみ、針をさす

片手で消毒した部分の周囲の皮膚を軽くつまみ、もう一方の手でシリンジ（注射器）が見える面を上にして補助具をしっかり持ってください。



3 注入する

補助具を押しあてたまま、皮膚をつまんでいた手を離します。手でゆっくりと時間をかけて（目安として 10 ～ 15 秒くらいの時間をかけて）ピストン（押し子）を押ししてください。





4 針を抜きアルコール綿で押さえる

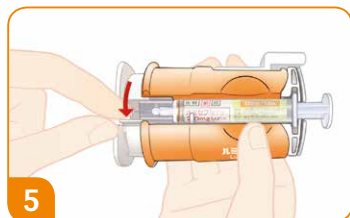
注入を終えたら、そのまま補助具を体から離します。

針を抜いた後、アルコール綿で静かに10秒程度押さえます。アルコール綿を外して血が出ていない事を確認したら注射は終わりです。

注射した部位をもむとはれることがあるので、もまないように注意してください。



●補助具からの取りはずし方

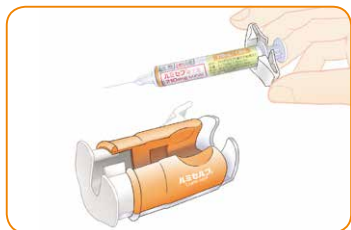


5 シリンジ(注射器)を補助具からはずす

針カバーを元に戻して針が見える状態にして、シリンジをはずす準備をします。



白いレバーを外側に引くとロックが解除され、シリンジ(注射器)を補助具からはずすことができます。



シリンジ(注射器)を取り出し、廃棄してください。

シリンジ(注射器)は針キャップをつけずに廃棄ボックスに廃棄してください。

※針で指をささないように注意してください。

※補助具は、繰り返しそのまま使用できますので、保管してください。

廃棄について

- 使用済みのシリンジ（注射器）が入った廃棄ボックスの廃棄方法は、主治医の指示に従ってください。
- シリンジ（注射器）は針キャップをつけずに廃棄ボックスに廃棄してください。
- 廃棄ボックスに入れた使用済みのシリンジ（注射器）は、小児の手の届かないところに保管し、家庭用のごみと一緒に捨てないでください。
- 特に指示がない限り、アルコール綿および針キャップ、プリスター（包装）、外箱は家庭ごみとして各市町村の収集方法に従い捨ててください。



※「アルコール綿」および「針キャップ」を廃棄ボックスに捨てることも可能です。

注射部位と注射した日の記録

注射した部位と注射した日をルミセフ®の『体調管理手帳』に記録し、次回の注射に備えましょう。
また、病院に行く際は注射の記録を持参し、医師や看護師のチェックを受けてください。



このような場合は、病院に連絡を

ルミセフ®を注射した後に、「いつもと何か違う」と感じたら、速やかに病院に連絡してください。

特に次のような症状があらわれた場合には、**次の受診日を待たずに、すぐに主治医や医療スタッフに連絡してください。**

胸 部：せきがつづく。

口や喉：嘔吐、のどの痛み、口唇周囲のはれ。

皮 膚：かゆみ、じんましん、発疹。

全 身：かぜのような症状、からだがだるい、発熱、さむけ、ふらつき、異常に汗をかく。

注射スケジュールについて

予定日に注射を忘れてたら？

- 必ず主治医に連絡し、いつ注射したらよいか指示を受けてください。
- 体調管理手帳にも記載してください。
- 決して2回分を一度に使用しないでください。

予定日に注射できないときは？

- 予定日に注射できないことが事前にわかっている場合には、主治医に相談してください。

注射する時刻は一定の方が良いですか？

- 注射をする時刻は何時でもけっこうですが、注射を忘れないために、一定の時刻に決めて注射をする方がよいでしょう。疑問点があれば主治医に相談してください。

体調が悪いときも、予定通り注射して大丈夫ですか？

- かぜのような症状があったり、体調が悪い場合は無理に注射をせず、主治医に連絡してください。

注射の準備について

シリンジ(注射器)内の空気を抜く必要はありますか？

- 皮下注射なので、シリンジ内に多少気泡が残っていても注射には問題ありません。空気を抜く場合には、シリンジをまっすぐ上に向け、気泡が一番上に上がるように、指でやさしくシリンジ(注射器)をたたってください。その後、ピストン(押子)をゆっくりと上に押し上げ、針先から薬液が1、2滴出始めたら、そこで押し上げるのをやめてください。

注射の痛みを少なくするには？

注射で痛みを感じる場合は、これらのことを試してみましょう。

- 注射する部分の感覚を鈍くするため、注射する前に約1～3分間、保冷剤などで注射する場所を冷やしてから消毒し、注射を行ってみましょう。
- 薬液が冷たいと、痛みを感じやすくなります。注射前に手のひらで1分程度温めてから注射を行いましょう。
- 針をさすときに長く時間をかけると、痛みを感じやすくなります。すばやく針を刺しましょう。
- 緊張すると痛みを感じやすくなります。注射前に3回深呼吸をし、4回目の深呼吸で息を吐く時に合わせて針を刺し、次の呼吸に合わせて薬液をゆっくりと時間をかけて(10～15秒程度で)注射してみましょう。
- 薬液を急速に(目安として10秒未満で)注射すると、痛みを感じやすくなります。薬液はゆっくりと時間をかけて注射しましょう。

注射時、注射後について

注射の際に皮膚から薬液が漏れた場合は？

- 薬液が皮膚から漏れたことを主治医に連絡し、指示に従ってください。

シリンジ（注射器）内の薬液をすべて使い切らずに薬液が残った場合は？

- 薬液をすべて使い切らなかった場合は、そのシリンジ（注射器）は廃棄ボックスに捨てて、体調管理手帳に使い切らなかった理由を記入してください。

注射したところが痛くなったり、かゆくなったりした場合、どうしたら良いですか？

- ご自身の判断で対応せず、主治医に連絡してください。

注射した日にお風呂に入っても大丈夫ですか？

- お風呂に入ることはできます。ただし、注射の直後は避けてください。
- 入浴時には注射箇所をこすらないようにしてください。
- 熱や発疹など身体に異常がある場合は入浴を控えてください。

多く注射してしまった場合は？

- 多く注射してしまった後、体調が悪い、皮膚の状態がおかしいなど、何かおかしいな、と感じたら、主治医に相談してください。
- 異常を感じなくとも次回の診察時に、多く注射したことを主治医に伝えてください。

※ルミセフ[®]は、1シリンジにつき1回のみ使用するお薬です。

Handwriting practice lines consisting of 20 horizontal dotted lines.

